



まちのシンボル よつづか

～宗像市日の里地区～

次の50年を見据えたハイブリッド型住宅団地の再生

宗像市 都市再生部

都市再生課長 内田 忠治

令和4年10月7日



世界遺産 沖ノ島



豊かな自然に囲まれた宗像市は、福岡市と北九州市から約30キロ圏内に位置し、交通アクセスに恵まれた良好な住宅都市として発展してきた。



宗像大社

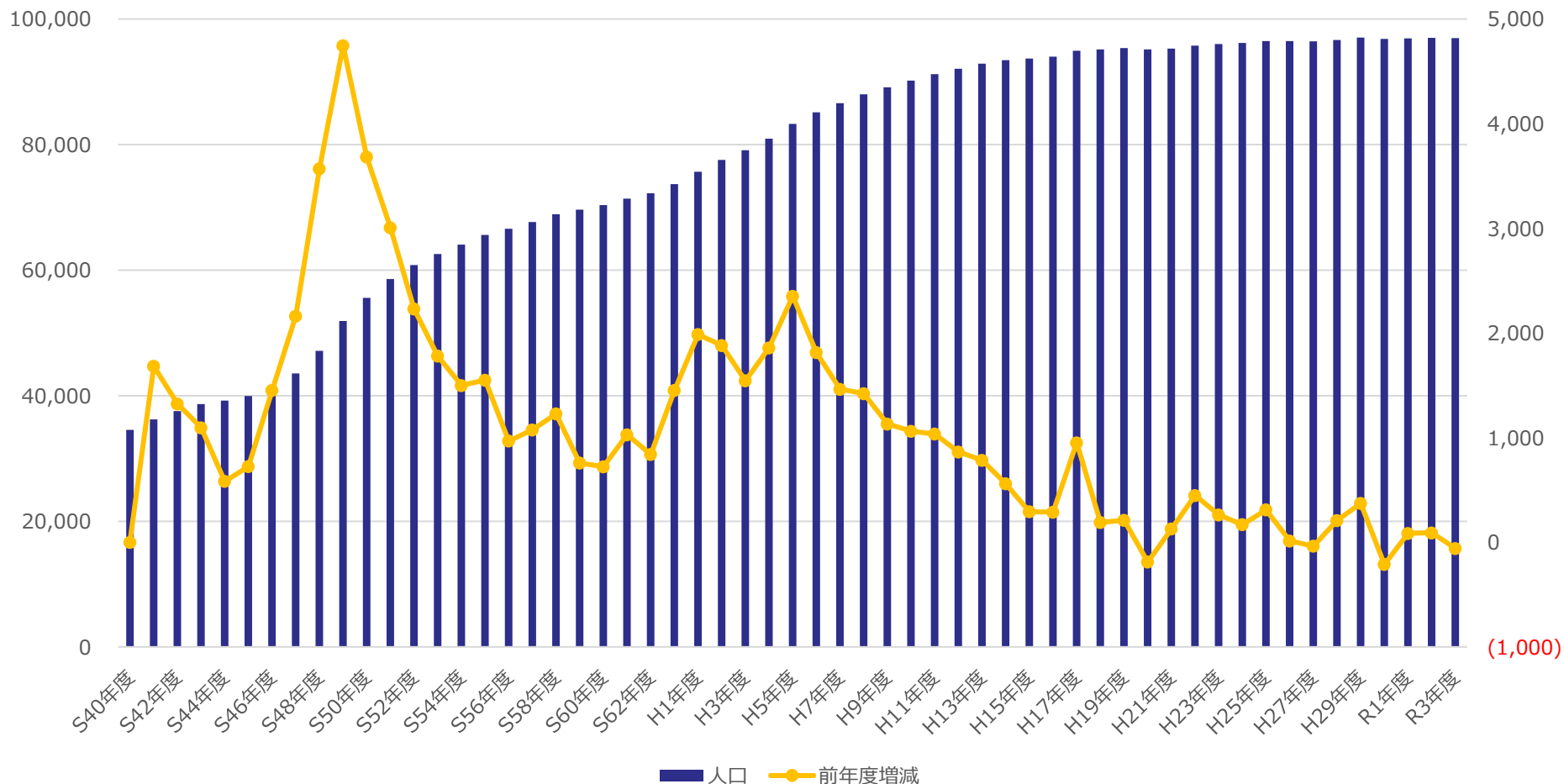


宗像ユリックス

- 人口 96,931人 (令和4年3月31日現在_住民基本台帳)
- 世帯数 44,078世帯 (令和4年3月31日現在_住民基本台帳)
- 面積 119.94 km² (平成31年3月31日現在)
- 都市計画区域 10,990 ha (平成31年3月31日現在)
(市街化区域 1,876 ha、市街化調整区域 9,114 ha)

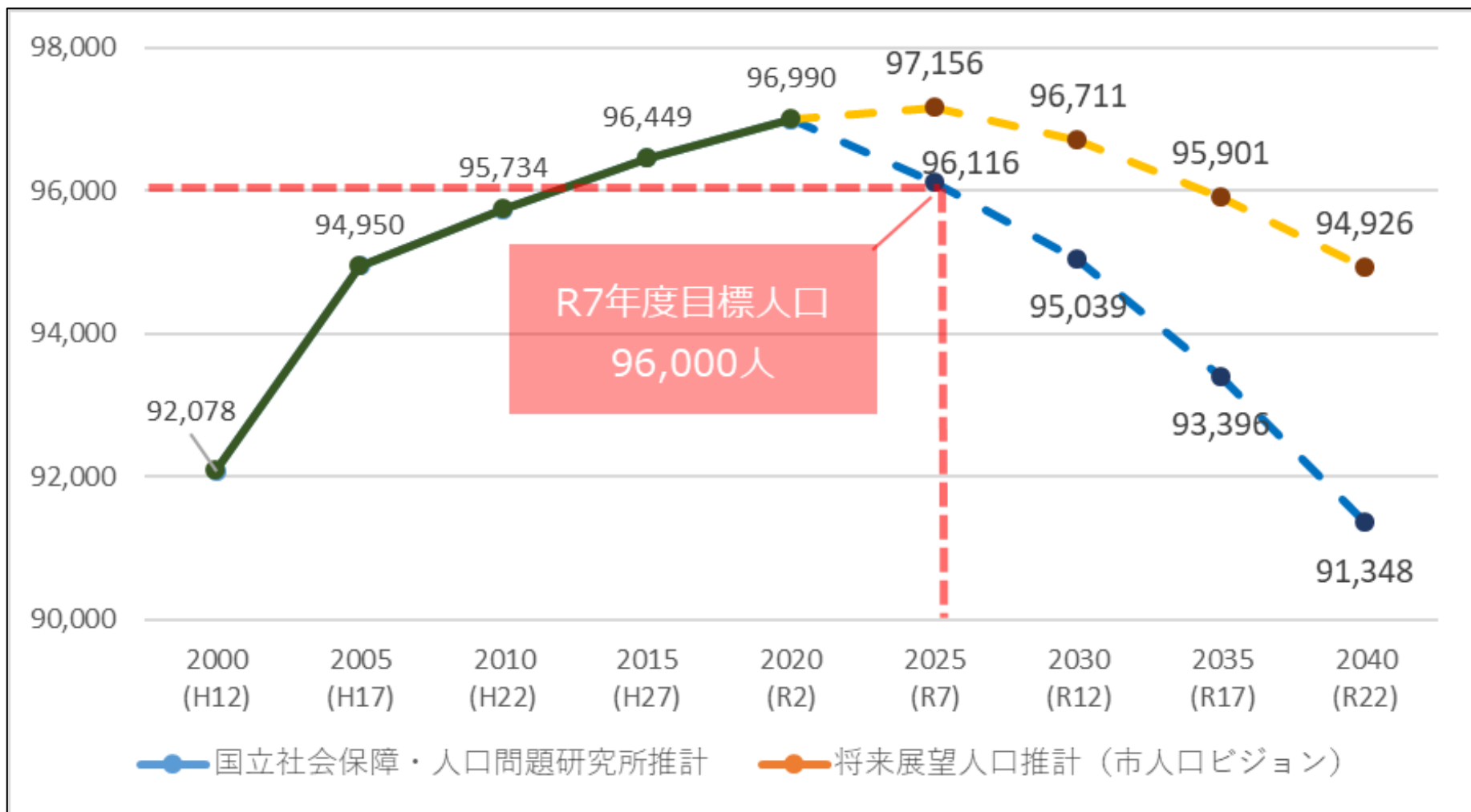
昭和40年代の大型団地開発を背景に人口が急増し、令和4年3月31日時点では96,931人。
第2次宗像市総合計画において、令和7年度時点での目標人口は96,000人。

宗像市の人口の推移



※～H16年度：各年度9月末
H17年度～：各年度3月末

- 第2次総合計画策定時のR7年度時点の目標人口96,000人は達成の見込み。
 - 社人研では令和7年度、市人口ビジョンでは令和12年度には、人口減少に転じる見込み。
- ⇒ 人口減少に歯止めをかけることに加え、人口減少を見越した各施策の適正規模化が必要。



- 人口減少や少子高齢化の進展などの社会情勢の変化は都市構造上において、問題が発生することが懸念される。
- 本市では、これらの社会情勢を踏まえて、都市構造上における次の課題で整理した。

(1) 利用しやすい公共交通の充実

- 将来の人口減少下において、バス等の公共交通サービスの維持
- 高齢者をはじめとするだれもが利用しやすいバス等の公共交通の充実

(2) 生活サービス機能の利便性の確保

- 公共交通による生活サービス機能（商業・医療・介護福祉など）へのアクセシビリティの向上
- 将来人口集積とバランスのとれた生活サービス機能の配置・再編による持続的な施設確保

(3) 安心して住める居住環境の維持

- 空き家・空き地の既存ストックの有効活用や定住化の促進などによる、多世代が安心して暮らせる持続可能な居住環境の確保

(4) 歩いて暮らせるまちづくりの推進

- 生活サービス機能（商業・医療・介護福祉など）やバス等の公共交通へ徒歩や自転車に安全・快適にアクセスできる「歩いて暮らせるまちづくり」の実現

(5) 災害に対する居住地の安全性の確保

- 浸水想定区域や土砂災害(特別)警戒区域など災害の発生リスクがある地域において、災害に対する居住地の安全性の確保

(6) 都市経営の安定化

- 地価の高い地域での居住の継続や地価の下落防止などによる市税収入の確保
- 公共施設等の老朽化に伴う歳出について、宗像市アセットマネジメント推進計画に基づく、公共施設等の維持管理費用の軽減・平準化
- 高齢化の進行により増加が懸念される医療費について、高齢者の健康増進によって削減するなど、歳入に見合う歳出構造への転換

基本理念：宗像版集約型都市構造の形成

市中央を貫流する釣川沿いの農地の後背となる丘陵部を中心に住宅地開発、**市街地**や**主要な都市機能が分散して立地**



今後の都市構造は一極集中ではなく、地域の特性を踏まえた**多極連携の集約型都市構造を目指す**ことが適切



(1) 各コミュニティ内での生活利便性を維持する集約化を目指す

駅やバス停、コミュニティセンター周辺など、日常的に人が集まる場所をコミュニティの中心に位置づけ、店舗や身近な公共公益施設など、生活の利便性が確保できる機能を集約させる。

(2) 駅周辺への都市機能の集約化を目指す

赤間駅及び東郷駅周辺に都市機能が集積する拠点的形成し、新規の都市機能が現状より分散しないようにする。

(3) 分散する公共公益施設を地域の個性・魅力づくりに活用する

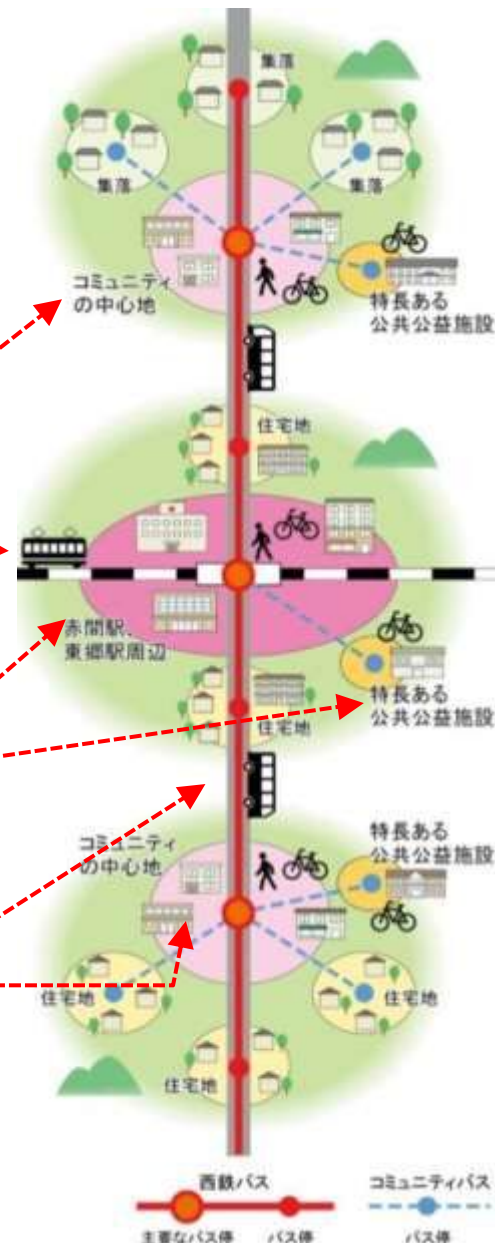
分散している特長ある公共公益施設の機能（行政、文化、福祉、学術研究など）と近接する地域中心の機能を連携させ、地域の個性づくりに活用する。

(4) 交通ネットワークを強化し、公共交通の利便性を高める

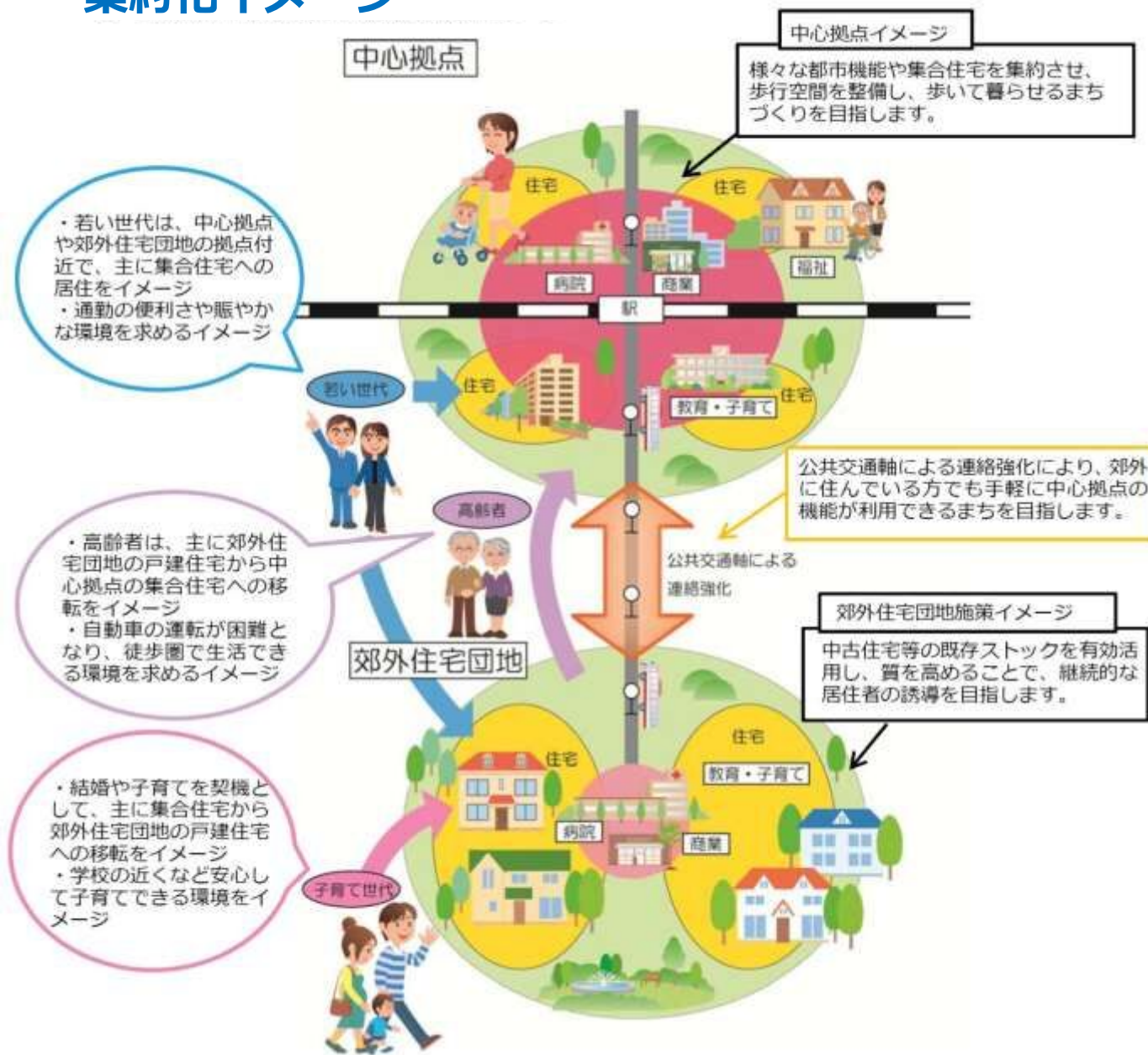
拠点及び地域中心における機能の集約や特長ある公共公益施設との連携を通じて、交通ネットワークを明確にし、公共交通利用者を増やす。

(5) 集約型都市構造の形成は緩やかに進める

集約型都市構造の形成は、短期集中的に行うものではなく、新たな施設の立地や既存施設の建替えの機会を活かして緩やかに進める。



集約化イメージ



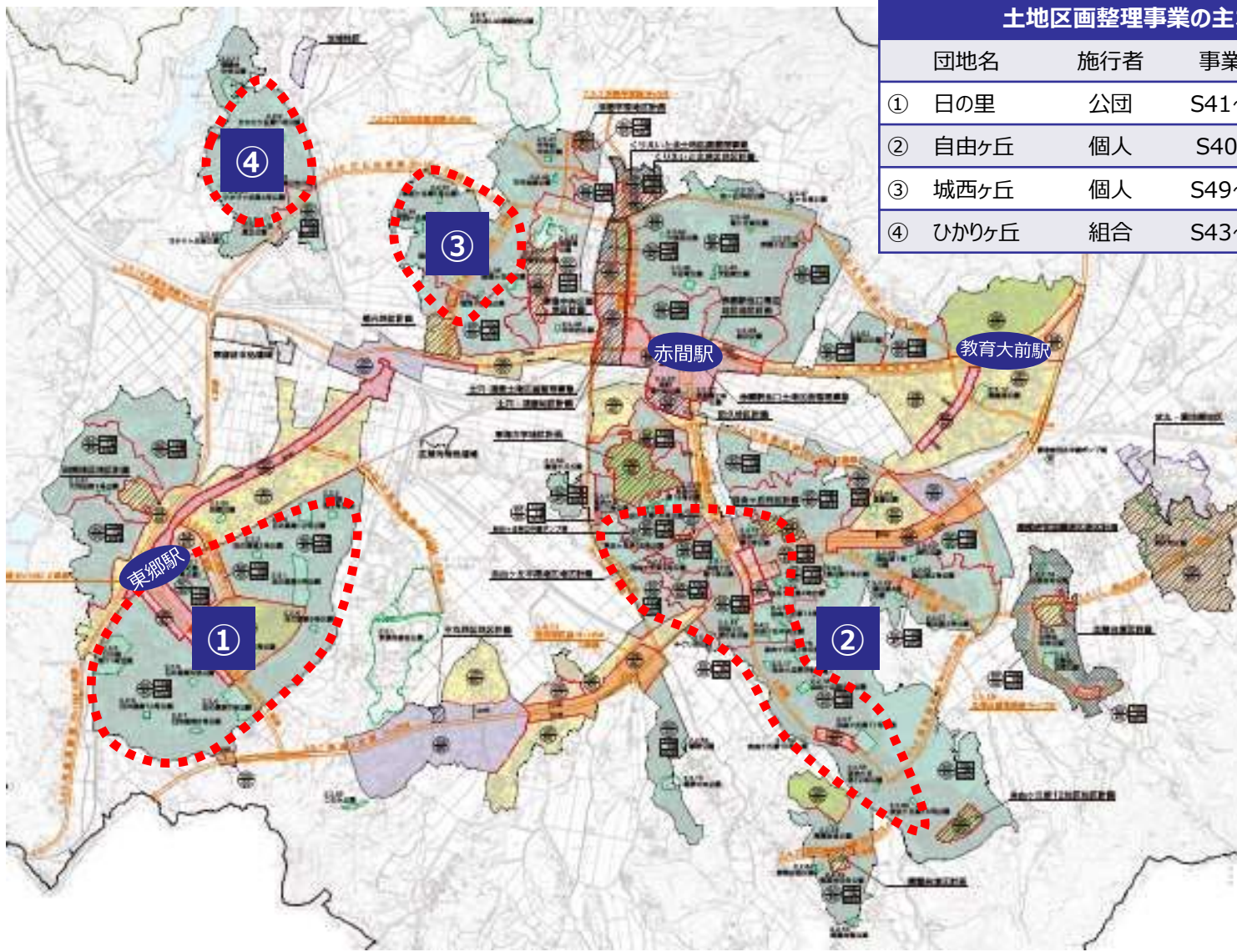
中心拠点や各拠点周辺では図のようなイメージによってコンパクトなまちづくりを進め、本市における集約型都市構造の実現を目指す。

ここでは、世代や家族構成の違いにより居住者分類を大きく3つに区分して、それぞれの居住者分類の大きな方向性をイメージしている。
(住み替え循環)

明治・大正期の九州鉄道株式会社（現ＪＲ九州）による鉄道開通を機に赤間、東郷などの駅周辺に市街地が形成されはじめ、昭和４０年（１９６５年）前後に国鉄（現ＪＲ九州）鹿児島本線の電化、宗像バイパス（現国道３号）の開通に伴い、大規模な住宅団地開発、大学の建設などが相次いで進んだ。

土地区画整理事業の主な実施状況

団地名	施行者	事業年度	施行面積
① 日の里	公団	S41～S45	約217.6ha
② 自由ヶ丘	個人	S40～H6	約173.9ha
③ 城西ヶ丘	個人	S49～S61	約51.9ha
④ ひかりヶ丘	組合	S43～S61	約44.7ha



<現状・課題>

昭和40年代に開発が始まった大規模団地（日の里・自由ヶ丘）は、**居住人口の減少、高齢化、住宅の老朽化とともに空き家の顕在化が進行**している。

そのため、**住み替えや建て替え**等の定住促進へ向けた取組みが喫緊の課題である。

<対応方針>

住環境の優位性を活かしたまちの質の向上 / 豊かな暮らし方を提供できる良好な住環境づくり

日の里地区：JR東郷駅と国道3号が隣接していることから、**広域交通の便が良好**

自由ヶ丘地区：JR赤間駅まで南北を縦断している路線バスや福岡市内までの高速バスの運行もあり、**公共交通軸が充実**

<主な取組みの変遷>

H25	H26	H27	H28	H29
▽ 都市再生庁内プロジェクトチーム創設・団地再生等の調査研究 ▽ 宗像市都市再生戦略の策定	▽ 宗像市都市再生連携協力に関する協定書締結 ▽ 日の里地区まちづくり計画特別委員会の設立	▽ 宗像市都市計画マスタープランの改定 ▽ 再生事業を推進する「都市再生事業推進協議会」設立	▽ UR日の里団地の再生による利活用検討 ▽ JR東郷駅前空き店舗活用（CoCokaraひのさと）	▽ UR日の里団地（解体予定の10棟）の利活用検討 ▽ CoCokaraひのさとの賑わい創出事業拡充
H30	R1【団地再生元年】	R2	R3	R4予定
▽ 宗像市都市再生ピッチ大会&パネルディスカッションの開催 ▽ 日の里地区エリアマネジメントの構築として人材発掘ミーティングやワークショップを実施 ▽ 都市再生課の新設	▽ 福岡県宗像市日の里団地共同企業体と連携協定を締結（ひのさと48プロジェクト始動） ▽ ココカラ運営協議会の法人化に向けた支援	▽ 国道3号「新王丸橋橋台」へのウォールアートプロジェクトの実施 ▽ オンデマンドバスの実証運行開始	▽ 生活便利施設「ひのさと48」オープン ▽ 「さとのはhinosato」まちびらき ▽ 日の里地区都市再生ビジョン策定 ▽ 自由ヶ丘地区でジョブモビリティやドローンの実証事業実施	▽ 空き家等を活用した面的整備手法の検討 ▽ 自由ヶ丘地区都市再生ビジョンの検討

1. 目的

日の里や自由ヶ丘は、居住人口の減少や住民の高齢化等により、住宅の老朽化や空き家化が進行しているため、住み替えや建て替え等の定住促進へ向けた方策を講じる必要がある。住宅地の「質」を高め、豊かな暮らし方を提供できる良好な住環境づくりへの具体的かつ実現可能な事業や取り組みを検討するため、やまちづくりを専門とする民間事業者や有識者等による意見交換を行い、都市再生事業に関する意見やアイデアを提言していただく。

2. 実績

テーマ	
第1回	◇日の里団地、自由ヶ丘団地の現状【現地視察】 ◇宗像市都市再生戦略について
第2回	◇「千里ニュータウンなどの事例から再生を考える」 ◇「空き家活用・地域づくりから再生を考える」
第3回	◇「パークアンドライドの活用と都市再生について」 ◇「既存郊外住宅地の再生」
第4回	◇「都市政策の立場から再生を考える」 ◇「専門家会議提言書の取りまとめについて」

3. 専門家会議委員等（敬称略）

会議役職	所属／役職
コーディネーター	株式会社醇建築まちづくり研究所／所長
委員	積水ハウス株式会社／執行役員・福岡マンション事業部長
	株式会社福岡銀行／執行役員・公務金融法人部長
	西日本鉄道株式会社 自動車事業本部営業部 営業第二課／課長
	九州工業大学 工学研究院 建設社会工学研究系／教授
	九州大学大学院 人間環境学研究院 都市・建築学部門／准教授
	福岡県／建築都市部長
	副市長
オブザーバー	独立行政法人都市再生機構 九州支社／団地マネージャー

I 東郷駅前UR団地の再生と活性化（ストック有効活用）

○団地リノベーション
→日の里団地再生計画の提案

○団地コンバージョン
→むなかた女子力大学の提案

II 日の里・自由ヶ丘の戸建て地区の再生

○リフォーム喚起のための場づくり
○既存住宅の小規模施設への
リフォーム、コンバージョン
○住み替えマッチング、流通促進



『わがまち住ませ隊』
プロジェクト



（参考：積水ハウス内部資料）

III 住宅取得支援方策

○住宅ローン金利優遇制度創設
○宗像らしい優遇措置 → 住宅再生リノベーションを優先



IV コンパクトな暮らしを支える仕組み

○Park&Rideの拠点づくり（日の里・自由ヶ丘）

V 豊かな居住環境の創出

○空き地、未利用地の有効活用
○住まい手による居住環境の維持保全活動の推進
○日の里、自由ヶ丘コミュニティづくり

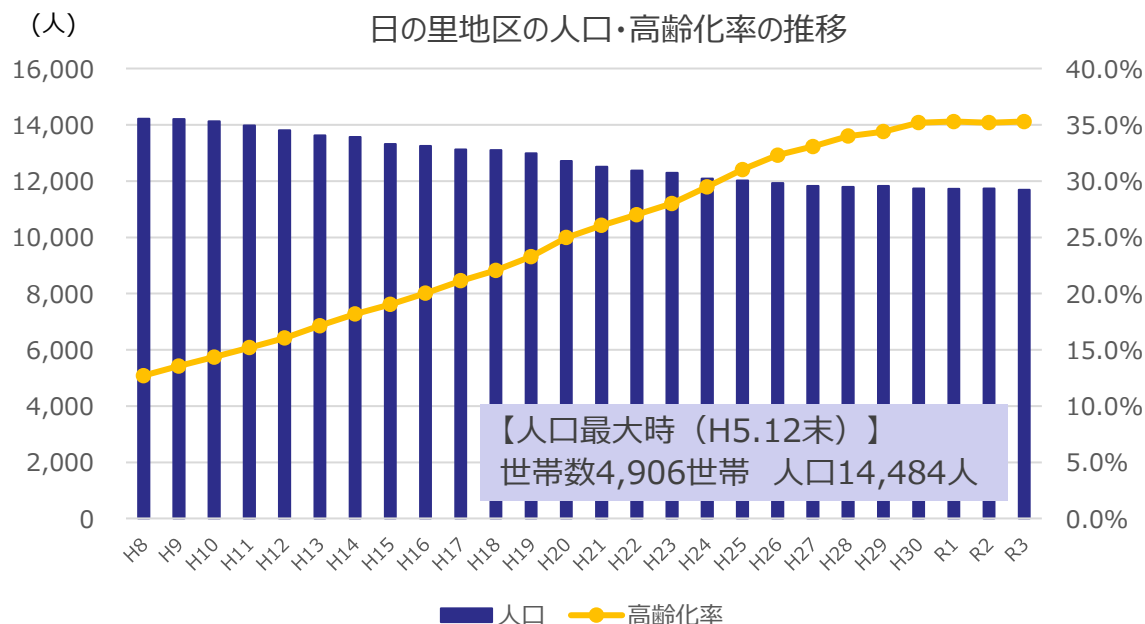
VI 宗像市の住まいと住環境のブランド化

○宗像市の住まい、住環境のブランド化



（参考：ふるさと安心の家）

- ◆日の里地区は、福岡市の北東約25km、北九州市の西約35kmに位置し、地区北側はＪＲ鹿児島本線に接する標高30～80mの概ね北傾斜の丘陵地であった。
- ◆事業名称は「宗像都市計画事業東郷土地区画整理事業」、施行者は日本住宅公団（現都市再生機構）であり、施行面積は、2,176,723㎡、施行期間は昭和36年から45年である。計画戸数は5,100戸、計画人口は20,000人である。
- ◆土地利用計画は、地区中央を南北に縦貫する都市計画街路2・1・6号線（W＝20～25m）を境として東西に二つの近隣住区を構成し、それぞれに小学校及びサブショッピングを設けた。また、開発ベースとなる集合住宅を地区中央部に配置し、東郷駅周辺に行政・商業施設等を配して、地域発展の核とするよう計画した。公園としては、丘陵・ため池等を有効に利用した近隣公園、遺跡を取り入れた古墳公園を設けたほか、誘致距離を考慮して、児童公園（街区公園）を適宜配置した。
- ◆地区内は、郵便局、小学校が2校、中学校が1校ある。
- ◆地区北部にはＪＲ鹿児島本線が通過して、ＪＲ東郷駅が位置している。また、福岡市と北九州市を結ぶ宗像市の広域軸である一般国道3号にも隣接し、広域交通の便に恵まれている。
- ◆同時期に同世代が入居し、半世紀近くが経過した現在、高齢化や空き家化の急速な進行が危惧されている。また、団地内には一部の棟を除き、エレベーターがない。



R3年度末	世帯数	人口	高齢化率
市全体	44,078	96,931	30.1%
日の里地区計	5,565	11,688	35.3%
日の里1丁目	466	1,030	25.5%
日の里2丁目	480	1,066	34.1%
日の里3丁目	379	843	35.1%
日の里4丁目	368	848	33.1%
日の里5丁目	471	1,003	38.2%
日の里6丁目	482	1,109	33.0%
日の里7丁目	544	1,255	36.4%
日の里8丁目	457	1,078	32.8%
日の里9丁目	578	1,279	39.2%
日の里公団1区	932	1,464	38.7%
日の里公団2区	193	393	32.1%
日の里公団3区	215	320	53.4%

1. ねらい・概要

本市は、これまで住宅都市として人口増加をけん引してきた住宅団地の再生を推進することをまちづくりの柱と位置付けている。そこで、将来にわたり住み続けられるまちであり続けるため、都市開発から半世紀経過した大規模住宅団地である日の里地区では、住民の高齢化や空き家の増加、施設の老朽化などが課題となっており、団地再生事業を**官民連携**で取り組みを推進している。



ひのさと48



2. 重点的に取り組む内容

● 東郷駅周辺のまちづくり

主要駅であるＪＲ東郷駅から日の里東部生活拠点（ひのさと48）までの中心部で、安全で楽しく歩ける「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を実現するため、公共空間（歩道や人工地盤の整備など）の整備を検討。

● 賃貸集合住宅のリノベーション

社会課題である空き家の利活用促進策として、子育て世代に活用を促す目的で民間の賃貸集合住宅やＵＲ日の里団地の部屋をリノベーションし、居住者ニーズに応える住宅供給の支援のあり方について検討。

● 公共交通の充実、利便性向上

本市が目指すまちづくりの実現のためには、公共交通の存在が不可欠である。加えて、住民の高齢化に伴う移動手段の確保が課題であることから、公共交通体系の再検討が必要。



ＪＲ東郷駅上空から見た日の里地区



賃貸住宅が密集する街なみ



市が運営する公共交通

- 日の里循環路線バスの運行終了に伴い、新たな乗合バスサービスとして開始
- AIを活用し、予約状況に応じた最適な運行ルートを決定
- 令和3年3月から運行開始（2年間の実証実験）

乗降場所マップ



【総乗客数・アプリ登録者数・利用者実数】

	日あたり乗客数		総乗客数	アプリ登録者(累計)	利用者実数
	平日	休日			
4月	92	32	2,224	1,017	351
5月	97	29	2,130	1,176	338
6月	115	47	2,898	1,374	436
7月	133	44	3,150	1,581	513
8月	115	40	2,809	1,688	459
9月	121	37	2,793	1,786	411
10月	140	50	3,450	1,928	498
11月	143	48	3,352	2,062	543
12月	139	52	3,462	2,229	554
1月	127	41	2,791	2,306	452
2月	125	44	2,685	2,364	444
3月	135	54	3,448	2,479	518

【予約方法の内訳】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アプリ	63.9 %	69.0 %	67.8 %	70.8 %	75.9 %	76.4 %	73.2 %	73.8 %	76.0 %	78.9 %	79.6 %	79.5 %
電話	36.1 %	31.0 %	32.2 %	29.2 %	24.1 %	23.6 %	26.8 %	26.2 %	24.0 %	21.1 %	20.4 %	20.5 %



多様な主体が交わり、新たな「さとづくり」の推進力に！



令和2年3月26日
福岡県宗像市日の里団地共同企業体と
日の里地区まちづくりに関する連携協定締結

○住友林業(株) ○セキスイハイム九州(株)
○ミサワホーム九州(株) ○大和ハウス工業(株)
○パナソニックホームズ(株) ○積水ハウス(株)
○トヨタホーム九州(株) ○東宝ホーム(株)
○西部ガス(株) ○東邦レオ(株)
(共同企業体 計10者)

○一般財団法人住宅生産振興財団
○独立行政法人都市再生機構九州支社
○宗像市
(市も含み計13者)



1. 概要

さとづくりは、日の里づくりでも、ふるさとづくりでもある。住宅地の再生を不動産的価値から暮らしの価値向上によって実現するため、宗像市、UR、民間企業、地域住民の官民が一体となって進めているプロジェクト。「サステナブルコミュニティ」をコンセプトに、6つのテーマを掲げ、地域課題解決型事業の創出を目指す。具体的には、団地一棟をリノベーションして地域交流の拠点を設立し、ブリーチャー事業やDIY工房、コミュニティカフェをベースに文化づくりから日の里らしさを活かした活動を始めている。

2. コンセプト

サステナブル

コミュニティ

Sustainable community

「サステナブルコミュニティ」とは、コミュニティを単純な人の繋がりにとらえるのではなく、コミュニティが半永久的に継続可能な環境（社会システム）づくりを実現すること。



過去から現在へとこれまで50年間続いてきた日の里のコミュニティを次の50年に向けてデザインしようというコンセプト。これからの社会のあり方を常に考え、多様なものを受け入れる新たなチャレンジを起こす場として捉えている。そんな進化していくコミュニティを実現していく場づくりが、日の里団地にある。それらを実現するため、6つのテーマを掲げ、この拠点からまち全体に広げることを目指している。

・Culture(文化・日の里らしさ)

- 生活文化・コミュニティの理解と継承
- 既存住民と新住民や世代の壁を越える取組み

・Work(仕事・職)

- 郊外住宅街を職住遊一体の楽しい街へ
- Co-creation等企業を誘致する仕組みづくり

・Education(地域ならではの教育)

- 日の里の環境だからその教育の場づくり
- こども店員のようなリアルな職業体験の場づくり

・Mobility(移動手段)

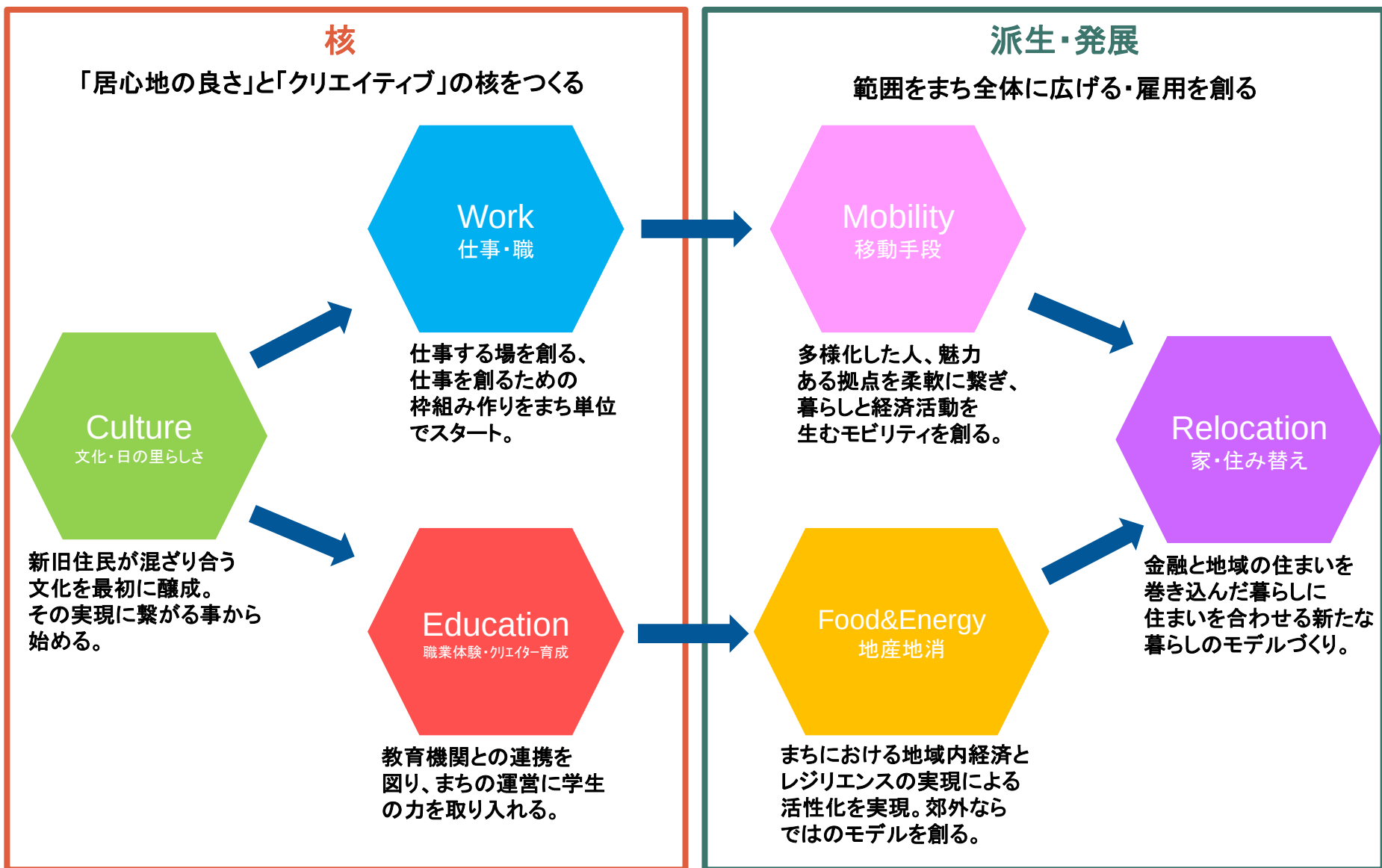
- 自動運転・シェア自転車等の新たな交通手段開発
- 自動車との上手な付き合いができる空間づくり

・Food&Energy(地産地消)

- 職づくりに繋がる地元農家育成による地産地消
- 孤食や食べるを通じたコミュニティづくり
- 水素・太陽光等の環境&地産地消エネルギー開発

・Relocation(家・住み替え)

- 団地・戸建を含めた住替え促進の仕組み
- 不動産・資産価値を高めていくような取組み



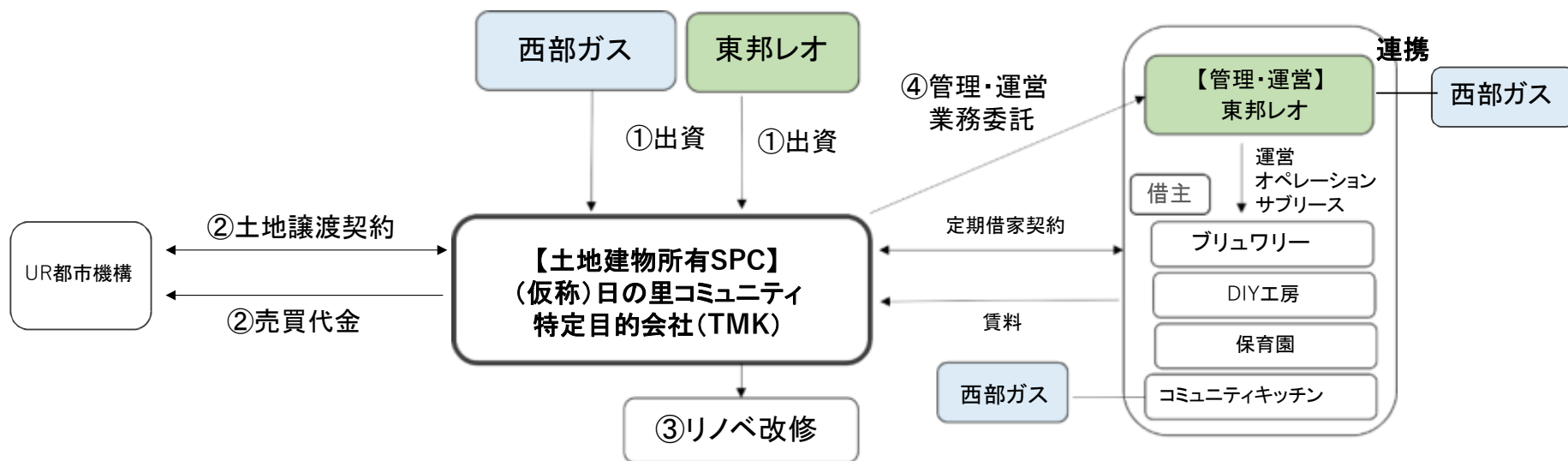
地域交流拠点「ひのさと48」では、地域に開かれたコミュニティスペースを展開している。さとづくり48のコンセプトに共感していただいた事業者と一緒にこの拠点でまちづくりに関するさまざまなチャレンジをしている。



エリアマネジメントの運営で土地・建物の所有者と運営者の隔たりを無くすことで、

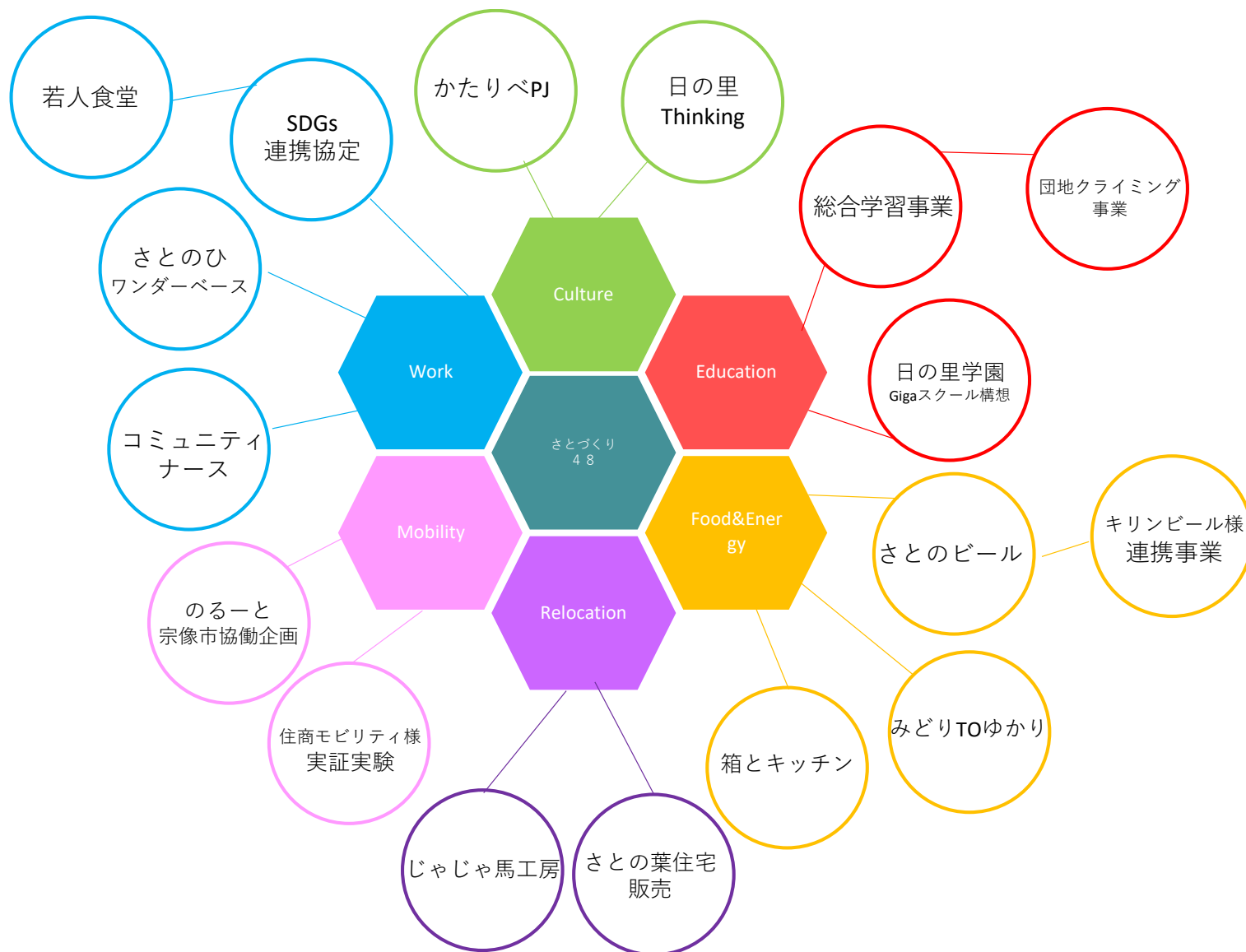
1. レベニューシェア等の環境を整備し、事業創出型エリアマネジメントの運営モデルを確立
 2. インフラ企業が軸となる10年単位の広範囲なリノベ型まちづくりという新たなビジネスモデルの確立
 3. 多様な組織人材がチームに加わる事により、パラレルキャリアを実現し、新たな人材育成モデルを確立
- の3つを確立するために、運営体制についても西部ガス、東邦レオ両社で創意工夫を重ねている。

※「レベニューシェア」とは、発注側と受注側で事業収益を分配する成果報酬型の契約方法。



- ①西部ガスと東邦レオにてSPCへ**出資**
- ②UR都市機構からSPCが既存棟部分を**購入**
- ③SPCが既存棟を**リノベ改修**
- ④既存棟を東邦レオと西部ガスで共同運営

2020年3月26日、市と連携協定を締結し、官民連携で17のプロジェクトが立上り、取組みを行っている。



さとのビールは、宗像産の麦芽を使用した地産地消型ブリュワリー。
ヒトとモノとコトをつなげ、コミュニケーションを生み出すためのコミュニティ型クラフトビール事業。



日の里パールエール



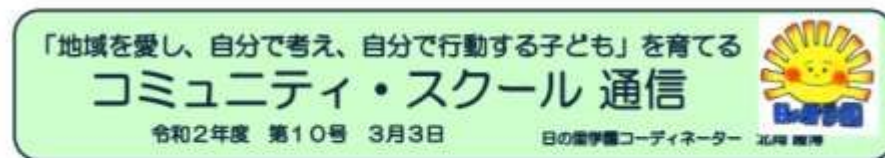
大島甘夏ベルジャンホワイト

(左) 地域で活躍する人たちからそれぞれの取り組みを取材し、イラストで人柄を表現。取材内容はHPで。

<https://stzkr.com/people/>

(右) 地域の生産者さんとコラボレーションし、フルーツを使ったビールを生産。ビールを媒介して地域の生産物や担い手の方を知ってもらうきっかけをつくる。

さとづくり48チーム、宗像市、日の里学園の先生、地域の住民が連携し、小中学校の総合学習の一環として、子どもたちが日の里でやりたいことを、大人たちが全力でかなえる“ひっさつわざPJ”が2020年9月から始動している。



日の里学園が文部科学大臣表彰

2月25日(木)に、日の里学園運営協議会が、「地域学校協働活動」推進で、文部科学大臣表彰を受けました。

日の里学園運営協議会とは、コミュニティ・スクール(CS)を進めている日の里学園の運営支援や、地域を元気にする活動等について協議を行う組織で、現在14人の委員で構成され、年間6回の協議会を行っています。

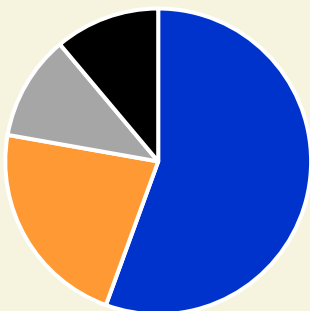
また、「地域学校協働活動」とは、社会総がかりで子どもたちの学びや成長を支えるために、地域の高齢者、大人、学生、保護者などの住民や、コミセン(公民館)、民間企業などが学校と連携・協働して実施する様々な活動のことです。

日の里学園は、平成18年度から15年間進めてきた小中一貫教育で、学校間の連携・協力体制が整っていますが、それに加え令和元年度からCSを進めています。CSの学園運営協議会では、「地域を愛し、自分で考え、自分で行動する子どもの育成」をめざし、地域の「人・もの・こと」と積極的に関わる学習について、検討したり評価したりしています。そのような学園運営協議会の活動が、全国のモデル的な実践であると評価されて、この度の大臣表彰につながりました。





利益の使い道イメージ



- 修繕費 & コース改良費
コースの修繕
難易度調整のコース改良
- 施設充実費
カフェの本やヨガボアの購入
さとあそびのための備品
- 観光スポット整備費
観光スポットの清掃費
ルート整備費等
- 日の里学園整備費
図書の購入等



熱い想いを持つひのさとの人たち、さとづくり48で協働する人たち。「ひのさとthinking」では、そんな素敵な人たちの考えや想いを紐解きながら再発見する、出会いのトークイベントを実施している。

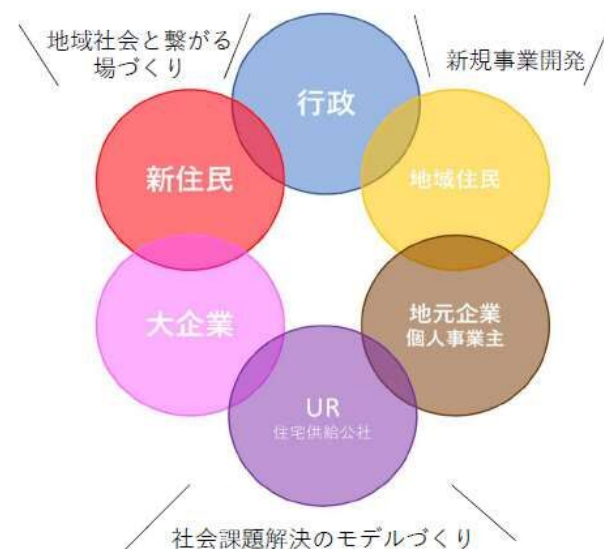


社会課題の最前線である地方の郊外住宅地で、まちの課題を解決していくためのチームを作るには、企業間連携だけでなく、官民連携はもちろん、大人や子どもを含む生活している人、地域の人たちの協力が必要不可欠となる。

さとのひワンダーベースは、これまでの取組みによる関係性を活かして、行政、地域、民間企業が、宗像市を具体的なフィールドに、一緒に（=Co）動きながら（=Doing）より良い方法を試行錯誤する拠点を作る。



「苦楽を共にする」



第1回 まちづくりアワード(実績部門)

特別賞

さとづくり48プロジェクト(西部ガス株式会社・東邦レオ株式会社)

- ◆所在地:福岡県宗像市
- ◆取組名称:「さとづくり48(フォーティーエイト)」～宗像市日の里団地における団地再生プロジェクト～
- ◆活動概要:築約50年が経過した団地群について、既存棟の活用と新築の戸建販売というハイブリッド型の団地再生事業を行い、既存の48号棟を改修した生活利便施設「ひのさと48」を拠点に、地域コミュニティの形成に貢献しています。
- ◆選定理由:既存棟を改修した生活利便施設「ひのさと48」を設置し、地域に開かれたコミュニティスペースを展開。当施設の空き室には認可保育園や福祉療育施設、ウクレレ工房等、多種多様な施設が入居しており、団地住民、学生、地元企業や域外企業、大学、移住者等がつながる取組は、団地再生の好例として先導性、多様性が高く評価されました。



▲ 地域住民で開催するガレージセール



▲ 団地外観

資料提供: 西部ガス株式会社・東邦レオ株式会社



都市が
抱える
課題

- ・公園緑地の利活用策について検討が必要
- ・空き地、無蓋駐車場等の低未利用土地の常態化

- ・徒歩利便性の更なる充実
- ・住宅ストックの有効活用が必要

まちづくり
の方針
(ターゲット)

民間事業者との連携による公共空間や住宅ストック等の活用

公共空間の活用

- 公園や公共空地等の公共空間の更なる有効活用の検討
- 民間事業者誘致による住民の利便性向上につながる事業の展開



事業イメージ（埼玉・みさと団地）

低未利用土地の面的整備

駅まち空間の有効な活用

- 空き地、無蓋駐車場等の低未利用状態にある地区の再生手法の検討
- 民間事業者等との検討会による手法の決定。
- 駅前の魅力向上をはかり、コンパクトなまちづくりを目指す。



住宅のリノベーション

- 民間事業者と連携して、賃貸住宅の空き部屋や空き家のリノベーションを行うもの
- 現在の住宅ニーズに対応できるよう、民間事業者と連携し、住宅ストックの利活用を促す。

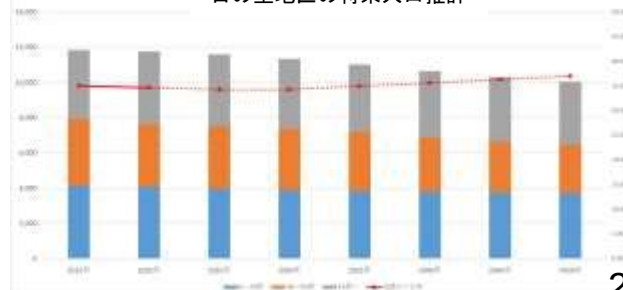


課題解決の
ための必要
な施策・誘
導方針

K P I
の設定

評価指標	日の里地区全人口に対する39歳以下の割合
設定根拠	日の里地区は39歳以下の比率を維持しているため
現状値	34.6% [2020年度]
目標値	2020年の現状値を上回ることを目標にします。 2025年：34.8%、2030年：35.0%
算出方法	住民基本台帳人口（外国人住民を含む）

日の里地区の将来人口推計



次世代に引き継ぐレガシー



新しい価値の創造

既存住棟を活用した生活利便施設

- 新しい団地と周辺住宅地のコミュニティのハブ・地域拠点
- 団地の記憶・歴史を物語る



先駆的な戸建て住宅

- 緑が人をつなぐ、「サトヤマ」のある暮らし
- 地域に開かれた向きで並ぶ住宅

住民のまちづくり活動

- 子どもの育ちを見守る活動
- ご近所みちあそび
- クリスマスマーケット



次世代を担うまちづくりの担い手

- 若い世代の増加
- 地縁等だけではなく、共通の価値観に基づくコミュニティの形成

持続可能な団地再生への取組み

- 日の里ファーム
- 世代に合わせた住居の提供
- 地域医療福祉拠点化の形成



事業による新たな価値の創造

- 宗像の新たな産業振興の魅力
- 域外から人を呼びこむ体験スポット
- まちづくりを担うプレイヤー支援

多様な世代が生き生きと暮らせる持続可能な地域循環共生社会の形成



48

まちづくりは
さとづくりへ

Town planning is going to
village development

Sato-zukuri 48 Project

48

To be continued